



# SAPIXサピックスにいちばん 身近な個別指導である PRIVATO (プリバート) その魅力をご紹介します。

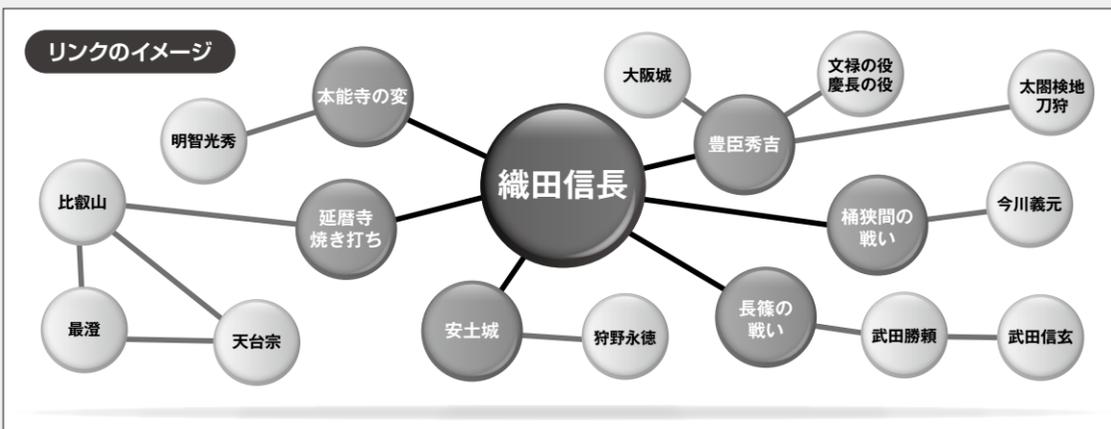
## 第13弾 対話が導く「得点力に直結する社会科知識」とは?

### ① さまざまな問題に対応できる「ホンモノの知識」とは?

社会科に多く寄せられるご相談の一つは、「デイリーチェック(小テスト)では点数が取れるのに、マンスリーテストや組分けテストではなかなか点数が取れない」というものです。これはどういうことなのでしょう。「デイリーチェックで点数が取れる」ということは、知識を身につけるための努力はそれなりにしているということだと思います。ところが出題のされ方によっては歯が立たなくなってしまう。おそらく「知識が脳内でどのように整理されているか」といった点に問題がありそうです。

たとえば、歴史の学習でありがちなのが、年号と出来事の一つひとつをセットで覚えていくパターン。イメージするならば、順番どおりに並べられた「年号」の棚の一つひとつに、整然と「出来事」が収められているような感じでしょうか。真面目に学習すればするほど棚の数は増えていき、収められていく出来事も増えていきます。しかし、これだと単純な知識問題には対応できても、設問の切り口が変わると途端に対応できなくなります。

「社会ができる」お子さんの脳内はおそらくそのような感じではなく、関連する知識同士は、人物・場所・出来事を問わず、複雑に結びついており、ネットワークが形成されているのでしょう。一見、雑然としているようでいて、実は高度なリンクが張られており、それぞれの知識を自在に行ったり来たりできるような状態なのだと思います。こうした「知識のリンク」が出来上がっていれば、さまざまな角度からの出題に対しても、柔軟に対応できるようになるでしょうし、これこそがめざすべき「ホンモノの知識」といえるでしょう。



### ② 「知識のリンク」をつかっていくためには?

では、どのような学習をしていけば、「知識のリンク」ができるのでしょうか。自宅で独りで勉強していると、一つの「問い」に対する一つの「答え」を正解できた時点で「わかった」ことになってしまい、そこで完結してしまいがちです。一方、プリバートの授業は、ほぼ「対話」形式で進み、たとえば次のようなやりとりが行われます。

もちろん、こうした発問のやりとりは地理分野でも行われます。「都道府県別のキャベツの生産量ベスト3は?」という発問から始まり、「高原野菜」や「高冷地農業」といった用語についての確認、さらには「どうしてキャベツって一年中店先に並んでいるの?」といった思考力のトレーニングまで発展させます。

授業時間には限りがありますので、当然のことながら、個別の授業のなかですべてを教え込むことはできません。ただ、こうした発問を繰り返すことで、知識に対する向き合い方が変わってくるのです。一つの知識を得たときに、「ほかに同じようなことはないのかな?」「こんなことが起きた背景は?」「このあとどのようにつながっていくんだろう?」など、自分自身で発問が思いつくような状態になれば、知識は「より広く」「より深く」「より細かく」なって、ぐんぐん増えていきます。先に挙げた「知識のリンク」もこうした向き合い方ができてくれば、自然と形づくられていくはず。実はこうした姿勢こそが、プリバートが掲げている「わかる⇒できる」の授業を通じてめざしていることなのです。

ひと昔前の入試問題では、「覚えたもん勝ち」といった印象もあった社会科ですが、現在では一筋縄ではいかないタイプの出題が多くなりました。好きな子は自発的に勉強を進められる一方で、興味を持っていない子や苦手意識の強い子にとってはなかなか手をつけにくい教科かもしれません。教師とのマンツーマンの授業であれば、どんな質問でも気兼ねなくできます。ちょっとしたことが「良いきっかけ」となることもあります。まずは相談だけでも結構です。皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。



個別指導事業本部  
中野 英樹先生

### お問い合わせ・お申し込み

プリバートについてのご相談・お問い合わせは、各教室までお気軽にお電話ください。



お近くの教室を探す▶

**PRIVATO**  
www.privato-sapix.com

プリバート 検索

